JTUC-aomori

No.426　2025年８月

れんごう青森

発行　日本労働組合総連合会
青森県連合会（連合青森）
発行人　中野　隼
青森市本町３丁目３の11
青森県労働福祉会館内
TEL (017)735－0551
FAX (017)735－0553
URL http://aomori.jtuc-rengo.jp/
月１回発行　１部10円
（組合員の購読料は会費の中に含む）

第27回参議院議員選挙

逆転の夏

－県内国会選出議員－

第27回参議院議員選挙は７月３日に公示、７月20日に投開票が行われた。現職と新人の計５人が立候補した本県選挙区は、連合青森推薦候補である立憲民主党新人の福士ますみ氏が21万4613票を獲得し、自民党現職の滝沢求氏に１万6647票差をつけ初当選を果たした。本県参院選挙区で自民が２議席とも失うのは2007年以来。連合青森推薦議員は福士氏を含め本県国会議員は衆参合わせて立民４人、自民３人となり、今回の選挙で青森県内与野党が逆転する結果となった。なお、福士ますみ議員は８月１日に初登院し、「県民の皆様と共に悩んで共に解決策を見いだして共に歩んでいけるような政治家になりたい。」と抱負を語った。

また、比例区においても、非常に厳しく難しい戦いとなったが９人の当選を果たすことができた。

比例候補を擁立した構成組織のご努力に敬意を表し、様々ご協力をいただいた構成組織、組合員、ご家族の皆様に感謝。

当　福士　ますみ　２１４，６１３票
（立憲民主党・新人）

滝沢　求　１９７，９６６票（自由民主党・現職）
加藤　勉　９１，０８３票（参政党・新人）
荻野　優子　３２，３１７票（共産党・新人）
佐々木　晃　８，８３７票（ＮＨＫ党・新人）
【参考】投票者数５５７，４４８［投票率５４．２２％］

	氏　名	得　票	産　別
当	田　村　ま　み	205,331	ＵＡゼンセン
当	いそざき　哲史	181,976	自動車総連
当	岸　まきこ	147,648	自治労
当	平　戸　航　太	92,137	電機連合
当	郡　山　りょう	94,610	ＪＡＭ
当	小沢　まさひと	99,963	ＪＰ労組
当	みずおか　俊一	116,142	日教組
当	浜野　よしふみ	193,599	電力総連
当	吉　川　さおり	116,314	情報労連
	森　屋　隆	74,495	私鉄総連

戦後80年
原爆・青森空襲展

2025年７月22日（火）～24日（木）

その時代、その場所に自分がいたら、何を思い、どうしていただろうか…

そこに自分がいたら、何を思い、どうしていただろうか…

今年、戦後・被爆から80年の節目を迎え、連合青森は、平和の尊さや戦争の悲惨さなどを改めて見つめ直し、次世代継承すべく、核兵器廃絶と恒久平和の実現の取り組みに注力している。

その取り組みのひとつとして、７月22日から３日間、原爆と青森空襲をセットでパネル展示を行う「戦後80年、原爆・青森空襲展」をサンロード青森１階サンホールで開催した。

これは、平和運動の一環として、継続開催してきた青森市の空襲を永遠に記憶し、二度と戦争を繰り返さないと誓い合う「7.28平和の集い」と、昨年から開催している広島・長崎の惨状を伝えるパネル展示を融合した形で企画したもの。

この原爆・青森空襲展には、期間内に市民ら400人以上が訪れ、「戦争はいけません。核兵器もなくなってほしい」、「今も戦争をしているところがあるけど早くやめてほしい」など、80年前の惨状に見入り、非戦の思いを口にしていた。

また、同会場では、核兵器廃絶1000万人署名の取り組みも展開し、多くの市民から賛同・協力を得た。

あわせて、広島・長崎集会に千羽鶴を献納するための折り鶴作成コーナーも設け、親子連れらも多く詰めかけ、折り鶴に平和への祈りを込めた。

事前告知街宣を行った。（＝７／17さくら野青森店前にて）

原爆・青森空襲併せて約40点のパネルを展示。

多くの来場者が平和への祈りを込めて千羽鶴を作成した。

TOPICS

当日の様子を、青森放送（RAB）が放送してくださいました。

原爆・青森空襲展についてコメントをする連合青森　塩谷　進　会長。

こちらの二次元コードからご覧ください

折り鶴行動

2,000羽超の折り鶴が集まる

連合青森は、前述の原爆・青森空襲展、平和４行動と連動して、「折り鶴行動」を展開。各構成組織からも２千羽を超える折り鶴が寄せられ、千羽鶴として、８月５日広島・８月９日長崎の集会それぞれに献納した。

ご協力に感謝。

署名運動

2026年４月に国連へ提出予定

連合は、2026年ＮＰＴ再検討会議に向けて、核兵器廃絶に向けた内外の世論を高めるため、核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現をめざし、署名運動を展開。

2026年３月で集約し４月に国連・日本政府へ提出する。

オンライン署名特設サイト

2025 平和行動 in沖縄

2025年６月22日（日）～25日（水）

連合は、「安心して暮らし、働き、労働運動に携わることのできる社会」の実現には、「社会が平和で安定していること」が大前提とし、積極的に平和運動を推進している。特に平和４行動として、沖縄、広島、長崎、根室で毎年行われる集会等に参加し、①核兵器廃絶による世界の恒久平和の実現と、被爆者支援の強化、②在日米軍基地の整理・縮小、日米地位協定の抜本的見直しに向けた運動、③北方領土の早期返還と日ロ平和条約の締結をめざす運動の３つの課題に対する取り組みをすすめている。

今年も、６月23日の沖縄「慰霊の日」に連合青森の構成組織から５名が沖縄を訪れ、同日の沖縄全戦没者追悼式（沖縄県主催）や2025　平和オキナワ集会に参加した。その団長を務めた對馬副委員長から報告をいただいた。

連合「2025平和行動in沖縄」参加報告

連合平和行動in沖縄は全国の構成組織・地方連合会から900名を超える参加者で開催され、連合青森からは５名で参加した。

平和集会は６月23日（月）開催であったが移動時間の関係で連合青森の参加者は前日（６月22日）に沖縄県へ移動した。

那覇空港に着陸前の飛行機からは青く澄んだ空と海、独特の色合いをした屋根の住宅やビルが見える普通の街並みを見ることができた。

那覇空港からホテルに移動する際も同じで普通の街並みと人々の生活が伺える。ホテルに到着後、国際通りを中心とする繁華街を散策。私自身は２度目の沖縄訪問であったが、前回は戦争や平和を意識せず漠然とした観光で訪れており、今回は「平和行動」を意識して歩いてみた。華やかな街並みや行き交う観光客、80年前、この空には多くの戦闘機、海には多くの軍艦、街並みは焦土であったことは想像できない。

集会当日は朝からテレビでは「沖縄全戦没者追悼式」の様子がライブ報道されており、去年まではこのニュースは気にせず聞き流していたと思う。今年は沖縄で沖縄の空気を吸ってテレビの追悼式を見る事で改めて80年前の事を知った。そして、何故この日（６月23日）に平和行動を継続している事の意味を知ることができた。

その思いを持って「平和オキナワ集会」に参加し、今までの自分の「無知」を思い知らされた。集会では来賓あいさつ、講師による講義では、今まで教わったことが無い、当時の惨劇を聞き胸が引き裂かれそうな何とも表現できない「悲しみ・苦しみ」を痛感した。

２日目のピースフィールドワークでは、辺野古キャンプシュワブの埋め立て現場、嘉手納基地周辺の住民環境、集団自決現場であり墓地霊場になっているチビチリガマ等、今も残っている「傷跡」を自分の目で見て、ガイドの話を自分の耳で聞いて「観光」ではなく「平和行動を目的とした視察」であり、沖縄県民が言う「戦後80年ではない！沖縄は今も戦争が続いている」という言葉に自分の「平和ボケ」と沖縄の状況を再認識した。

「恒久平和」とは言葉や文字では簡単に言えるが、本当の意味の「恒久平和」の実現には、過去の惨劇を語り継ぎ、二度と人類が過ちを起してはならない！という思いを全世界の人類が思い、希求することであり、「平和行動」の継続・拡大と全人類に波及させていかなければならない。と改めて心から本当に実感した。

最後に、この企画を継続している連合、この企画に派遣していただいた連合青森の皆様に感謝し、恒久平和の実現に向けて自分自身、これからも活動を継続していきます。

本当にありがとうございました。

連合青森　副会長　對馬　茂文（交通労連・三八五労組）

〈平和行動in沖縄ご参加の皆様〉
後列左から自動車総連　西田　寿也さん、
交通労連　對馬　茂文　連合青森副会長、
電機連合　花田　路也さん。
前列左から電力総連　鈴木　涼太さん、
運輸労連　櫻庭 知巳さん。

6月24日、「米軍基地の整理・縮小」と「日米地位協定の抜本見直し」を求める集会・デモ（県庁前広場～牧志公園）

集団自決現場であり墓地霊場になっているチビチリガマ「世代を結ぶ平和の像」

次世代へ語り継ぐ

未来協創型の地域経済社会を目指して　2025地域活性化フォーラム開催

青森中央学院大学　竹内紀人教授による基調講演「付加価値の創造と地域経済の好循環に向けて」。（＝7/29　ハートピアローフク大会議室にて）

連合青森と青森県経営者協会は７月29日（火）、地域活性化フォーラムを開催した。

初めに青森中央学院大学の竹内紀人教授による基調講演。2040年に県内人口が100万人を下回るとの予測を踏まえ「青森にある人材や資源をどう生かすか、労使一体となって考える必要がある」と提言した。

パネルディスカッションでは連合青森の中野隼事務局長、県経営者協会の小山田康雄専務理事、21あおもり産業総合支援センターの八木清之プロジェクトマネジャー、青森公立大学の大矢奈美教授が、中小企業の現状や人材確保、価格転嫁について意見を交わした。人材確保ではパネリストから「一人ひとりの事情に応じた雇用形態をつくり、細かいニーズを拾っていく動きを強める必要がある」「物価高に対応する手当の充実とライフステージに合わせた両立支援、経験を積んだシニア世代の労働力確保の３点が鍵になる」などの意見が出た。

人材確保などについて意見を交わすパネリストの皆さん。

連合青森　山内裕幸会長代行　退任のご挨拶

連合青森第14回執行委員会ならびに青森労済通常総代会において山内会長代行が、８月１日より、こくみん共済 coop 青森県推進本部長（青森労済理事長）に就任。ご本人からコメントをいただいた。

東青地協幹事、連合青森副会長、事務局長、会長代行として、連合運動前進にむけて活動させて頂きました。政策・政治・組織拡大は運動の柱であり、各構成組織との意見交換・意思疎通があってこそ前進するものと意識をしてきました。この間の取り組みにご理解とご協力を頂き感謝申し上げます。

今回「こくみん共済 coop 青森推進本部」での役目を与えて頂きましたので、これまでの経験を発揮し、精一杯取り組む所存です。引き続きのご指導を宜しくお願いします。